

会 議 の 名 称	第3回あま市放課後子ども教室のあり方研究会
開 催 日 時	令和5年3月29日（水）午前10時から11時30分まで
開 催 場 所	あま市役所 甚目寺庁舎 2階 第1会議室
内 容	1 あいさつ 2 協議事項 （1）令和4年度放課後子ども教室について （2）令和5年度放課後子ども教室について （3）その他
資 料	次第 令和4年度放課後子ども教室について（資料1） 令和5年度放課後子ども教室について（資料2）
公開・非公開の別	公開
傍 聴 人 の 人 数	1人
出 席 委 員	木全（克）委員、田邊委員、井村委員、谷川委員、横井委員、川原委員、村上委員、入山委員、大西委員、立松委員、内山委員
欠 席 委 員	三木委員、石塚委員
事 務 局	恒川子育て支援課長、林主幹、近藤課長補佐、山田主任

井村委員長	開会 あいさつ
子育て支援課長	あいさつ
事務局	資料確認
井村委員長	協議事項 (1) 令和4年度放課後子ども教室について
事務局	令和4年度放課後子ども教室について説明。
井村委員長	はい、ありがとうございました。少しずつ、浸透しているという感じですかね、これで卒業される保護者さんがもう少し、少しでも楽しかったことを低学年のお母さんとかにやっぱりお話ししていただくとか、まだまだ知られていないようなこととか沢山ありますので、そういうことが底辺にあって、どんどん増えていくといいなと思います。質疑に入りたいと思いますが、何かご意見はございませんか。
立松委員	お子さんのアンケートで、何か他に体験した以外で、何か他にやりたいことはありますかというようなアンケートは取られてないですかね。
井村委員長	子どもからのリクエストのようですか。
立松委員	子どものリクエストのよう、まあ聞いたらやらないかなくなっちゃうからそれは大変なのかもしれないですけど、でもまあ、色んな情報が入ってくる中で、何か新しい取り組みもあってもいいのかな、なんて思ってますが、あるいはそのもう少し子どものやりたい、という気持ちをどこかで、やっぱり放課後なので、もちろん体験てすごくいいとは思いますが、授業では非常にその学校の中ではね、決められた中で、指示されて動いてることが多いと思うので、やっぱり放課後はあくまで子どもが主役ということを考えると、もう少し子どもの意見というものをどこかに、反映させるようなアンケートをして、可能であればそういう要望に応じていって

井村委員長	<p>あげてもいいのかなとちょっと、思いました。</p> <p>ありがとうございます。また、参考に、色々とスタッフの方たちとも前向きに考えていってもらえたらと思います。他に何か。</p>
立松委員	<p>あと今の、ちょっとごめんなさい、スタッフの方のやってみたいことがありますか、という部分、ないという意見が結構多かったんですけど、何かそういうスタッフさん達の中で、結局色々企画の打合せだとか、されるとは思うんですけど、コロナ禍も少しずつ空けてきているので、毎年同じような感じではなくて、違った視点で議論しながら、やりたいことがないというのは少し寂しいなという風に少し感じましたので、大変だとは思いますが、という意見です。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。少しずつ、やっこここまで来たという感じなので、そこからまた本当に少しずつでもいいので、また、体験して感じたこと、そういうことがこれだったらもうちょっと他のことができるんじゃないかという、現場のスタッフの方たちの意見と、子ども達が自由な意見が出ると思いますが、まあそこは大人が考えながら、やれることをまた少しずつやっていくということでも、同じあれということではないんですけど、厳しいですけど。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。おっしゃられるとおり、意見を集約するというのも必要だなと思いますし、我々の方もこれやります、ではなくて、こういうこともあります、こういうこともあります、じゃあこの中から何かいいのはどうでしょうか、ですね、選択できるような形で我々の方も、色々、メニューじゃないですけど、アイディアを出したいなと思います。今、委員長おっしゃられますように大人がみんなで考えて色々意見出し合って子供達にも選んでいただけるようなものがあるとより一層、前に進んでいくのかなと思います。またあの、この辺も一つ、来年に向けて考えていきたいなと思います。よろしくお願いします。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。他に何かございますか。それで</p>

井村委員長	<p>は意見もないようですので、次に参りたいと思います。</p> <p>協議事項  (2) 令和5年度放課後子ども教室について</p>
事務局	<p>令和5年度放課後子ども教室について説明。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございました。中々、宝小学校の方が、人数が増えないですね。心配してます。皆さんどうですか。何か良い案はありますか。一人でも、子どもさんが来てくれたら、一年生、新一年生の子どもさん達のお母さんたちにもこういう、発散できる場所というのが学校にもありますよ、というような情報とかそういうのも流してあげないと、知らないまま学校で過ごすというよりは、そういう色んな町内ごとの、先輩の通学団、皆さんまだありますよね、ちゃんと、先輩の保護者さんとか、お母さん達の口コミで、何かやっぱり一番お母さん達の力があると思うんですよね。だからそういう力を借りて、少しでも、放課後子ども教室ということの情報を流していただけたらなという風に思います。何かご意見ありますか。</p>
大西委員	<p>この、仮申請児童数ですね。今言った3月2日からとっての、1週間、4月から1年生が入る子は入ってない訳だ。</p>
事務局	<p>そうですね、また新一年生の子が増えるといいかなとは思ってます。</p>
入山委員	<p>児童クラブに入ってる子はこちらに来れない訳ですよ、その人数は把握できますか。全体の絶対数というのがあると思うので、上限の来れない子まで人数に入れてしまうと、そこにいくら募集をかけても、十分な人数なのかということが知りたいです。こちらとしては。一番マックス何人入って来れるのかというのが、わかればいいなと思います。</p>
事務局	<p>そうですね、全体で宝小学校は全校で130人というところで、児童クラブ登録者が30人程度という風に伺っておりますので、100人が上限、最大で100人です。</p>

入山委員	100人ですので、1/2、中々厳しい、数字ですね。
事務局	割合としては厳しいですね。
井村委員長	他に何かお聞きしたいこと、何かアイデアがあったら教えてください。
村上委員	<p>今、甚目寺の方で西小学校が数、ものすごく今増えていますよね。やっぱり住宅が増えて、小さいお子さんの家庭が結構住んでる、住まわれている、ということを知っていますので、その過程でやっぱりあのお母さん達の意向もあって、こういう風に参加してるんじゃないかなという風には、感じています。何かそういう新しい家族、おじいちゃんおばあちゃんいらっしゃるとそこであの、中々そっちの方で加盟して、参加するというのが少ないのかもしれないし、ほんとに西小ばかりなんだか多いような気がします。色々な話お聞きしてましてね、と思いますので、そういうのも影響するのかもしれない。</p>
井村委員長	<p>そうですね、どうしても自宅で面倒みてもらえる方がいるという家庭だとまあいいかという風になるところも、やっぱり新興の住宅街でやっぱり若いご夫婦が引っ越ししてくると、中々そういうところにみてもらえないということで、できるだけ、学校の方へ、という、またそういう利用の仕方もあるかとは思いますが、何かほんともう少し子どもさん達に参加、どこも、ほしいところには少なくてね。</p>
立松委員	<p>いいですか、今後、生涯学習課さんの方に、移行されるということでコミュニティスクールを生涯学習課の方でやられていると思うので、学校運営協議会等でもう少し、PTAの方とかも、学校運営協議会に参加されてると思うんですね、なのでそこで少しPRとか、共有をもう少ししていただくと、それと学校運営協議会の委員さん達も、地域で少し、声掛けしたりとか、いい活動だよとかね、あとコロナで少し、お母さん方同士の交流が今まで少し、ちょっと少なかったのが、これからは少し、復活してくるんじゃないかなと。集ま</p>

<p>内山委員</p>	<p>ったりとか、そういうことが復活してくると、口コミで少し広げていただくというか、PTAの方にも少し発信していただいたり、そういったもう少し、連携が、できる方向があるんじゃないかと思います。</p> <p>5年度以降につきましてはまだ、我々も手探りの状態ですので、このやり方をとにかく踏襲していこうかなという思いをしております。ただ、生涯学習課としても、今言った地域学校協働本部だとか、そういったものはやっておりますので、その中でも何かしら、動きができればいいのかなとは思っています。今現在、そこまでしかちょっと考えがないうんですけど、まずは正直本当に手探りの状態ですので、我々自体が、追々、急ぐことにはいかないかなと思いますが、やっていきたいなと思っております。</p>
<p>田邊委員</p>	<p>児童クラブに行ってる子は参加できないということですね。保護者に見れば、働いてみえて、家に居られない家庭については、恐らく児童クラブの方にお子さんを預けていると思うので、ここに来ている子どもは特に必要はないんだけど、好きで来ていると言ったら悪いんですけど、そういう子が多いと思うんですよね。だからその中で、先ほどの令和4年度の結果を見たときに、みんな来て楽しかった、よかったというような、保護者の方からはほぼ100%に近いので、すごく頑張ってみえるなというように思います。自分は人数よりも来てよかったという、質を上げるの方が大事かなと、そういう意味ではすごく頑張ってみえるので、ぜひ来年度以降も続けていただきたいなと。一つ、もし人数を増やすということであれば、これって市の方からどれぐらい予算が出ているかわかりませんが、参加費の3,000円というのは下げるわけにはいかないのでしょうか。もしこれが、1,000円ぐらいだったら、もっと気軽に、いいんじゃないという風に言ってくれる保護者の方もいるかなという風に思います。もし検討できれば、参加費を下げただけだと、もっと、子どもは行きたいけど、子どもは面白そうだと言ってるけど、お父さんお母さんが3,000円出してくれないから行けないという子もひょっとしたらいるかな、という気持ちになります。</p>

<p>井村委員長</p> <p>事務局</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>ちょっと、新しい課長目の前にして予算のことは中々言えない、言いづらいですけど、下げるのも一つの手段、考え方だと思いますし、中々、立松委員おっしゃられたように、コロナ禍空けてくるんですけど、まだ世の中なるべく、給食にしても何にしても、下げる方向性を見いだせないかというところもでございますので、参加費の方は下げる形をとれるのであればそれも、検討の余地があるのかなというところで、またそれは内山課長が今後、財政当局と協議するところだと思います。私も、みんな楽しかったと言って、1年過ごしていただいたというところが、やっぱり重要だなと思っております。児童クラブの方も、児童クラブ行ってるんですけど、その日は自分行きたいんだよと思われる方もいらっしゃるんですけど、今後の検討としては、児童クラブも、空き教室でやってる学校であれば、交流というのも一つの案でしょうけど、そこから移動してる子ども達もいますので、そうすると中々難しいところもあるのかなと、子ども教室終わった後に児童クラブ戻りたいという方もひょっとしたら出てくるかもしれないですし、その辺の整理というのが、時間をかけてやる必要があるのかなと思いますので、まずは、これでバトンタッチをしますので、バトンタッチしたところで皆様のご意見をお聞きして、より楽しい子ども教室になるように進めていければなと思います。ありがとうございます。</p>
<p>川原委員</p>	<p>参加費のこともあると思うんですけども、前も私、ひょっとしたら、同じこと言ったかもしれないですけど、体験会、を開催してはどうか。この3,000円てほんとに子どもが年間全部13回全部通ってくれば、決して痛くない出費かなと思うんですが、とりあえず行きたいと言ってるからとりあえず1回3,000円払って、ほんとに最後まで行くのかしらとか、やっぱり嫌になっちゃたりするんじゃないかしらとか思うととても高いと思うんですよね、一度体験会というのを開催して、気軽にそこは来てくださいということで、よかったら来てもらうという形にしてみると、安心して申し込めるんじゃないかなと、すぐ5年度からというのは難しいと思</p>

井村委員長	<p>うので、行く行くの計画としてご検討いただければと思います。</p> <p>はい、また色々なアイデアとか参考になることが出てきてました。</p>
事務局	<p>ありがとうございます。我々ではずっと出てこないようなアイデアが、でもあの民間の部活動がなくなった、民間のクラブチームや何かも色々あるんですけど、やはりどこでも体験会ってやってるんですよね、体験会というのも一つね、ハードルがちょっと下がったような、垣根がちょっと下がった、行きやすい一つの手段かなと思いました、ありがとうございます。</p>
立松委員	<p>過去、美和町時代の時に、私が関わっていた時に、4小学校の合同児童クラブというちょっとお祭りみたいなイベントを行ったことがあって、その時に、美和の公民館の体育館を全部使って、段ボール迷路を大々的にやったんですね、やっぱりそれを体験した子供はすごく楽しかったと言って、さっきあの田邊委員もおっしゃられたように楽しかった体験でやっぱり子どもの中で印象に残っていくんですよね、そういったことも、なんかこうやったことをもっともっと発信して、こんなことやってて、子ども達の声みたいなことも、今時よくインターネットでもレビューと言って、体験者の声みたいなのかあげてますけど、そういった声なんかもチラシにも入れていいと思いますし、しっかりこうこういった声を実際にアンケートであるので、それは嘘ではないと思いますので、何かやっぱりイベントも質をあげるの一つとして、考えてもいいのかなと思いますし、少しコロナ禍、コロナ後、アフターコロナに向けて、何かやっぱりもう少し、変化、と言いますか、進化と言いますか、していくことも考えてもいいのかなと思っています。</p>
井村委員長	<p>はい、ありがとうございます。まだ、何か、ほかに、色んなの出ましたけど、</p>
川原委員	<p>田邊委員おっしゃったように本当にアンケートの結果が</p>



事務局	<p>すごく良くて、本当に事故もケガもなく、これだけの環境でやってこれたのは、本当に事務局さんの思いももちろんですし、もちろん本当に現場のスタッフさんが本当に一生懸命やってくださったんだと思うので、ぜひそれを感謝の気持ちを伝えていただきたいなというのと、あと、スタッフに登録していただく時に、どういう研修を受けていたんだと思って、どういう研修を受けていたんでしょう。新たになって頂くスタッフがいる訳ですよ、何か研修を受けていただいたりしてましたよね、最初って、今ってどんな風でしたっけ。</p> <p>今は特に研修ですとか、そういったことは</p>
川原委員	<p>ぜひ、安全に運営していただくのに、やっぱりスタッフになって頂く方にある程度の研修を安全に。</p>
事務局	<p>研修、とまではいかないですけど、以前児童クラブと子ども教室のスタッフが合同で子どもの特性だったりとか、児童クラブの支援員の研修の時に、合同で入って研修を受けていただいたことが、あったという記憶をしますね。</p>
川原委員	<p>それは全員に設定している訳ではなくて、その時はそうだったと、ぜひそれはスタッフとして、関わって頂く方には、全員これは受けていますよというような形で設定していただける何かがないと、これからも安全に運営していただけるのではないかなと</p>
大西委員	<p>今、スタッフの件ですけども、スタッフの令和4年度のアンケートですと、できないというところとまだわからないというところが30%、この辺のスタッフが辞めると言った時に、何かそういう手段、どうしようかというところのことは何か考えているのでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね、5年度新たにご登録いただいているスタッフさんが七宝地区で1名で、美和地区で1名、計2名の方には新たにご登録いただいております。</p>
大西委員	<p>ということは、宝が今2.3名のお子さんで、一人辞めるら</p>

事務局	<p>しいんですね、だから一人でやってるんだけど、自分達がそれだけ、その日に出ないと、出てこないといけないと一人しかいないと大変ですから、この今の来年度もご協力いただけますかというところで、まあできるという人は70%ぐらいいるんですけど、この辺のその、七宝地区・美和地区・甚目寺地区あるんですけど、その辺のところで、来年誰も入らないよというスタッフさんがいるところで、そういう時には応援か何か、考えているんですかね。</p> <p>そうですね、現状、美和地区の方でも行っているのですが、学校を兼務していただくような形で、スタッフさんの負担としては大きくなってしまいうんですけど、サポート体制というものを考えております。</p>
大西委員	<p>はい、わかりました、ありがとうございます。</p>
井村委員長	<p>スタッフさんは手の空いた人がどちらか、そういう風に、交互にね、やってみえるんですよ、人数の多いところに応援に行ったりとか、その都度その都度考えていただいたらいいのではないかと思います。</p>
木全副委員長	<p>それでは、現場の方から皆さんの質問に合わせて補足ですけども、放課後子ども教室のスタッフは、何が必要かということ、元気とやる気と体力なんですよ。特に研修はしてないですね。アンケートみていただくとわかりますけど、とにかく子ども達というのは安全で遊べるというのを親がすごくやってまして、その意味でいくと、スタッフというのは最低限安全に対する配慮、子どもの体力、自分の体力、会場の安全、そういった基本的なことを学ばないといけないんですけども、残念ながらそこまでの縛りを設けると、とてもやりたいという人はいません。残念ながら、立松委員が言われましたようにやってみたいことがありますか、ということができたんですけど、プログラムはコーディネーター・サブコーディネーターがいて、サポーターにこういう風にやりませよ、という形で連絡をして、じゃあ指示されたとおりにやりますということでは何か新しいことを自分がというのは、かなりの経験を積まないといけないということですよ。去年3</p>

	<p>回突き指と捻挫でわたし、医者へ行く前に添え木の手当てはしましたけども、我々教育現場に行くと、これぐらいの手当ては医者へ行くまでのことは当たり前なんですけど、そこまでの救急法を勉強する、ですとか、言う事を、じゃあ、教育の方法で、グループ分けてどうやって並ばせたらいいのか、各学年、1年から6年までいるのに、そういうところまでやってると、とてもじゃないですけど、展開でスタッフとして、やっていくことができないので。とにかく元気とやる気とみなさんの協力でというのが現実で、少しずつ今増えているというのは、子育て支援課も協力してやっておりますので、本当はそういう風にしていきたいんですけど、そこまで、何回研修、何日間の講座を受けてとなると、じゃあ私いいですわというところも今まで2.3回、いわゆる日本レクリエーション協会の公認資格をとって見たらどうか、というところも話を進めて1.2度やったことあるんですけど、そういったところも考えて進まないといけないというのが現実だと思います。以上です。</p>
井村委員長	<p>ありがとうございます。</p>
川原委員	<p>本当にスタッフをやる時に色んな勉強しなければいけないというのはあって、ただでさえ、スタッフ不足なのに余計に、というところは理解できるなと思いました。じゃあスタッフをやる時のスタッフの自信というか、安心感というか、自分がやっていいのかなと、でもこれだけの、そんなに大したものじゃなくても本当最低限のこれだけの研修を受けて、その上で登録してください、ということをやっていくと、スタッフになる人も自分はこの研修を受けたから、このスタッフをやっていいんだという安心感、自信と、あと預ける側も、どういう人がスタッフやってくれているんですかという時に一応希望者で研修を受けていただいた方にやっていただいていますという形でやっていただくと、子どもを通わせる保護者の方もちょっと安心感をもっといただけるんじゃないかなと、ただ、現実的には本当に大変な面もあると思うので、ただ、ちょっとできるところから、そういった研修のようなものを、受けてみるのもこれからの活動に必要なと、思います。</p>

井村委員長	そうですね、安全は色んな基本のことですよ。
内山委員	<p>すいません、ちょっとお聞きしたいんですけど、後学のために、令和5年度以降、携わる者として、お聞きしたいんですけど。そもそも放課後子ども教室というのは、お子様を児童の方を預かる場所なんですか、それとも、我々が小さい頃、学校から帰って、それこそ空き地で野球だとか、三角ベース、だとか、そういった場所があってそこで地域の大人の人達に怒られながら、田んぼを駆けずり回ったり、そういった場があった、ただ、昨今、そういった場所がなくなってきた、そういった場所を提供するという事で子ども教室、放課後子ども教室という考えでいいのか。そもそもの考えというのはどうなんですかね。ちょっとお聞かせ願いたいなと思ひまして、それとも、児童クラブ、私の子どもも児童クラブに通ってましたけども、そこでは指導員さんとか、そこは第二の家庭だよ、と。児童クラブは、ということでおやつもあれば、夏休みだとお昼もあれば、僕が行ってたところは、夏休みに1泊の旅行だとか、児童クラブはそういうところであって、そこは預かる場所だよ、と、第二の家庭だよと、指導員さん達はお兄さん、お姉さんだよと。ただ放課後子ども教室については、そういった我々が小さい頃に遊んでた、空き地だとか、がないので、学校の施設だとか、を使って、そこにそういった場を、来たい子はそこに来て、遊ぶなり、勉強するなり、というところの場で、施設を使うので、指導員さん、コーディネーターさんだとか、サブコーディネーターさん、サポーターさん、で見守るんだよ、という風でなのか、というところで。先ほど預かるというところで、そういった場なんですかね、というご意見をお聞かせ願いたいんですけど、そうすると、預かるという概念が違うのかなというの、あって。</p>
川原委員	<p>ごめんなさい、私が預けるという言葉を使ってしまったので、語弊があったかと思うんですけど、参加させるということ、参加させる、なので預ける、預かるという訳ではなくて、参加させるということです。失礼しました。</p>

事務局	<p>そういうことですね、コーディネーターさんとかサブコーディネーターさん、サポーターさん、というのは見守るとい うのが趣旨なんですかね、それとも、その辺りが、ちょっと よくわかっていなくて申し訳ないですけども、とんちんかん なこと言っていたらすいませんが、そもそものこの放課後子 ども教室というのがわからないもので、どういった立ち位置 なのかなというところが。</p>
事務局	<p>今回、子ども教室が全小学校区で、できることになったん ですけども全校で実施するにあたって、先ほど課長申し上げ たように、あり方研究会を立ち上げてですね、これまで美和 地区と甚目寺地区ではやり方は違えど、子ども教室という名 の事業があつて、それを広げていきましょう、まずあま市版 というものを、やり方違うものをですね、あま市版という統 一したもので全校やっていこうということで、皆様方にお力 添えいただいて、やってきた訳なんですけど、その中で、児童 クラブと子ども教室というものの棲み分け、の中で先ほど生 涯学習課長もおっしゃってみえた、児童クラブでは預かり、 確かに預かりのところだとは思いますが、子ども教室では遊 びとか、体験とか、を提供する場、当然行政が関わっており ますので、そういった体験とかをする提供する場もあろうか とは思いますが、そういった体験、遊びをコーディネーター さん始めですね、企画していただいて、子ども達に遊び を提供していくというような、趣旨だと思っております。た だ、お母さん方の感覚、市側のとか、委員さん側の、お考え と、預けるお母さま方との認識のずれはあろうかとは思ひ ますけど、ひょっとしたらお母さん達は預けの場、と思っ てらっしゃるのかもわかりませんが、元々の趣旨は預けの 場ではないのかなと、という風で思っております。</p>
内山委員	<p>色んな体験をさせてあげる場という。</p>
事務局	<p>HPのところで、最初に内容ということであげさせていただ いているんですが、内容少し読み上げますと、放課後の児童 に対し、安全で安心な居場所を提供し、地域の方の参画を得 て、様々な体験活動や異学年の交流を通じ、子どもが心豊か で健やかに育っていくことを目的にしておりますというこ</p>

井村委員長	<p>とだものですから、まあ、本当に皆様のご協力を得て、成り立っているところで、異学年交流も貴重な体験になるでしょうし、地域の方と触れ合う、まさしく先ほどの写真じゃないですけど、木全さんがお皿を回している姿みんな食い入るようにみている、ような、いい写真だなと思って、私、見ておりますけども、そんな中でこうやってアンケート結果に出てきているように、いいご意見も一杯いただいております。で、本日皆様からのご意見をいただいて、それもね、皆様のご意見というんはプラスになっていくものだと、全てのご意見をプラスに変えていくことも必要だと思いますので、本日の会議のご意見というのは貴重なご意見ではないかなというように今感じております。以上でございます。</p> <p>沢山の意見がね、出ました、それだけ皆さんの気持ちがあるというように私は受け止めております。ほんとこれから、子ども達のために、皆さんで、ますますまたいいものを、令和5年度の子ども教室になるように、ほんとにあの貴重な意見沢山いただきました。それではあの、次の方、よかったですかね。</p>
立松委員	<p>一つだけいいですかね、先ほど児童クラブに行ってる子は、放課後子ども教室に参加できないという、分けられてると言ったらあれですけど、子どもは変わらない、と思うんですよね、親が働いていてもいなくても、もちろんその家庭環境というのは非常に重要なので、仕方がないというか、それから環境の問題、学校で今、教室をやっているけれども、児童クラブは離れたところでやっているとなった時に、やっぱりその移動の問題があるので、そういった面は非常に難しいとは思いますが、国の方ですと新・子ども総合プランということで、今後その一体的にということ、進めているようなことも見受けられていまして、愛知県内でも少しずつ一体的な運営をされてるところもあると思うんですよね。やっぱり安全ということと地域とともにある学校とか地域とともに子供を育てていくという観点から言いますと、やっぱりクラブだから教室だからというところを少しなんかこう境界線を無くしていく少しことも考えていきつつ、行く行くはもう少し一体的なことも考えていってもいいのかなと、</p>

	<p>まあ先のことですけれどね、なんかその少しその在り方も少しずつ時代とともに変化していかないといけないと思いますので、ちょっと色々情報収集しながら、子供達の主体性というようなところを育てつつ、預けるというのは確かにあると思うんです。それはこちらの大人側の観点から預ける、となるんですけど、子供はあくまで主体的に、やっぱり生きていかないといけないので、自立心を育てるとか、そういった部分で放課後に与えて管理するという考えではなくて、子供が選べるとか、それから子供達が主体的に考えて、参加するというようなプログラムも、考えていってもいいのかなというように思っておりますので、今後発展的に何かその、あくまで子供達の成長とか、この時代の流れに合わせた、運営の方法、ちょっと抽象的な意見で申し訳ないですけど、もう少しそういったことも考えていけるようにしたいなと思っておりますけれども。</p>
事務局	<p>先ほど私も申し上げたように、それも一つ的手段といただきますかね、今後我々も研究会とかでご意見いただいていたければならないようなことなのかなと思っております、最初からダメということではなくて、ルールとしてどうしていくかとか、そういうところですね、その日は子供教室行ってそこで終わりね、とか、色々あると思いますので、ようやくここまで来た子供教室、また次の段階、に入っていくと思いますので、引き続きですね、皆様のご意見お伺いしながら、進めていきたいと思っております。</p>
内山委員	<p>令和5年度以降、また先ほどから出ておりますけれども、生涯学習課の方でやっていくことになります。また皆様の、私もちょっととんちんかんなこと言ったかもしれませんが、来年度以降、ご意見をいただければまたありがたいかなと思っておりますのでよろしく願いいたします。</p>
井村委員長	<p>それでは以上で本日のあま市放課後子ども教室のあり方研究会を閉会といたします。皆様どうも、ありがとうございました。</p>